

1.	②	11.	④	21.	④	31.	②	41.	②
2.	③	12.	④	22.	③	32.	④	42.	③
3.	①	13.	④	23.	④	33.	②	43.	①
4.	②	14.	②	24.	②	34.	①	44.	①
5.	③	15.	④	25.	①	35.	④	45.	②
6.	④	16.	④	26.	③	36.	④	46.	④
7.	④	17.	①	27.	④	37.	①	47.	③
8.	③	18.	④	28.	②	38.	④	48.	③
9.	③	19.	④	29.	①	39.	④	49.	④
10.	①	20.	①	30.	④	40.	②	50.	②

1.

解答 ②

【解説】

正解は②の『counter』です。この単語は、店や銀行、ホテルの受付などで、客と従業員がやり取りをするための、長くて平らな台、つまり「カウンター、受付台、売り場」を指します。日本語の「カウンター」と全く同じ感覚で使うことができます。他の選択肢も家具や設備を指す言葉ですが、用途が異なります。①の『desk』は、勉強や仕事をするための「机」。③の『table』は、食事をしたり物を置いたりする一般的な「テーブル」。④の『shelf』は、壁や棚ユニットに取り付けられた「棚」です。これらの単語は、場所や状況を描写する上で基本的な語彙となります。

◆補足：『counter』には、「計算機」や「(ゲームなどの) コマ」といった意味や、「反対する、反論する」という動詞の意味もありますが、英検準 2 級レベルでは、まず「店のカウンター」という基本的な意味をしっかり押さえておけば大丈夫です。例文: "Please pay for your items at the counter over there." (あちらのカウンターで商品のお会計をお願いします。)

2.

解答 ③

【解説】

正解は③の「B と同じ A」です。この構文は、二つのものを比較して、A と B が「同じ種類のものである」または「同一のものである」ことを示す際に使われます。"A is the same as B" (A は B と同じだ) という基本的な形に、名詞の A を挟み込んだ応用形と考えると分かりやすいです。A には、比較する対象の名詞が入ります。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を表します。①「B のような A」は 'A like B'。②「B に関する A」は 'A about B'。④「B とは違う A」は 'A different from B' となります。比較の表現は、英語の基本なので、これらの使い分けは非常に重要です。

◆補足：'as' の代わりに 'that' が使われることもあります。特に、B の部分が文の形になっている場合に 'that' が好まれる傾向があります。例文: "I wear the same size shoes as my sister." (私は姉と同じサイズの靴を履いています。) "This is the same watch that I lost yesterday!" (これは私が昨日なくしたのと同じ時計だ!)

3.

解答 ①

【解説】

正解は①の『close』です。この動詞は、開いているドア、窓、本、目などを「～を閉じる、閉める」という、非常に基本的な動作を表します。この問題の状況に最も一般的に使われる単語です。③の『shut』も「～を閉める」という意味で、多くの場合『close』と交換可能ですが、『shut』の方が少しだけ素早く、力強い動作を暗示することがあります。②の『lock』は、鍵を使って「～に鍵をかける」という意味で、「閉める」という動作の後に続く行為です。④の『open』は「～を開ける」で、これらとは逆の行為ですね。

◆補足：『close』には、形容詞として「近い」(発音は/klóus/)、副詞として「近くに」という意味もあります。動詞の発音は /klóuz/ と濁るのに対し、形容詞・副詞は濁らない、という発音の違いも重要なポイントです。例文: "Could you please close the window? It's a little cold in here." (窓を閉めていただけますか？ 少し部屋が寒いです。)

4.

解答 ②

【解説】

正解は②の『semester』です。この単語は、学校の一学年を二つに分けた期間、つまり「(2 学期制の) 学期」を指します。アメリカの多くの大学や高校で採用されている制度です。他の選択肢も学校に関連する重要な単語です。①の『grade』は「学年」(e.g., the first grade / 1 年生) や、テストの「成績」を指します。③の『term』も「学期」という意味ですが、こちらは主にイギリスや日本のような 3 学期制の学校で使われることが多いです。④の『class』は「授業」や「組、クラス」を指します。これらの学校関連の単語は、留学や海外の教育制度について話す際に必要となるので、それぞれの違いを理解しておきましょう。

◆補足：『semester』は、ラテン語で「6 ヶ月」を意味する言葉が語源になっています。前期は "the first semester" または "the fall semester"、後期は "the second semester" または "the spring semester" と呼ばれることが多いです。例文: "I am taking five courses this semester." (私は今学期、5 つのコースを履修しています。)

5.

解答 ③

【解説】

正解は③の「安全、無事」です。『safety』は、危険がないこと、または危険から守られている状態、つまり「安全」や「安全性」を指す名詞です。形容詞の 'safe' (安全な) の名詞形ですね。交通安全、食品安全、労働安全など、私たちの生活の様々な側面で使われる非常に重要な概念です。他の選択肢は全く異なる意味です。①の「救うこと」は 'saving' や 'rescue'。②の「節約」も 'saving'。④の「秘密」は 'secret' です。'safety' と 'saving' は、元の動詞 'save' が同じ（意味は異なる）なので混同しやすいですが、意味は全く違うので注意しましょう。

◆補足：「安全第一」は "Safety first." という決まり文句で表現されます。工事現場などで見かけるスローガンですね。また、"for your safety" (あなたの安全のために) という表現も、アナウンスなどでよく使われます。例文: "The government has introduced new safety standards for cars." (政府は自動車に対する新しい安全基準を導入した。)

6.

解答 ④

【解説】

正解は④の「昆虫」です。『insect』は、アリ、ハチ、カブトムシのように、体が三つの部分（頭、胸、腹）に分かれ、通常は 6 本の脚と羽を持つ小さな生き物、つまり「昆虫」を指す生物学的な分類名です。他の選択肢は、それぞれ異なる動物の分類を表します。①の「鳥」は 'bird'、②の「魚」は 'fish'、③の「哺乳類」は 'mammal' です。これらの生物の基本的なカテゴリー名は、自然や科学に関する文章を読む上で欠かせない語彙なので、正確に区別して覚えておきましょう。

◆補足：日常会話では、小さな虫全般を指して 'bug' という単語が使われることも多いです。

『insect』がより科学的で正確な分類を指すのに対し、『bug』はクモやダンゴムシなど、厳密には昆虫ではない生き物も含めて使われる、より口語的で広い範囲の言葉です。例文: "Many insects, such as bees and butterflies, are important for pollinating flowers." (ミツバチや蝶のような多くの昆虫は、花の受粉にとって重要です。)

7.

解答 ④

【解説】

正解は④の『promise』です。この単語は、動詞として、未来に何かを必ず行う、または行わないと、固く「約束する、誓う」という意味で使われます。相手に安心感を与えたり、自分自身に義務を課したりする、強い意志のこもった言葉です。他の選択肢は、それぞれ異なる心の動きを表します。①の『decide』は「～することを決める、決心する」という意味で、自分の中での決定を表します。②の『suggest』は「～することを提案する」。③の『hope』は「～であることを望む、願う」という意味です。これらは「約束」という、他者との契約や自己への誓いとはニュアンスが異なります。

◆補足：『promise』は名詞として「約束」そのものを指すこともできます。「約束をする」は "make a promise"、「約束を守る」は "keep a promise"、「約束を破る」は "break a promise" と言います。この動詞との組み合わせ（コロケーション）は非常に重要なので、必ずセットで覚えてください。例文: "He promised to call me as soon as he arrived." (彼は到着したらすぐに電話すると約束した。)

8.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～を誇りに思う」です。この表現は、自分自身のこと、あるいは自分と関係の深い人や物事に対して、満足感や誇りを感じている状態を表します。自分の子供の成功や、自分の仕事の成果、母国の文化など、様々な事柄に対して使うことができます。『proud』は「誇り高い、自慢の」といった意味を持つ形容詞です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる感情を表す表現です。①「～を恥じている」は 'be ashamed of'。②「～にうんざりしている」は 'be tired of' や 'be fed up with'。④「～に驚いている」は 'be surprised at' となります。これらの感情表現は、自分の気持ちを伝える上で非常に重要なので、セットで覚えておくことで表現の幅が広がります。

◆補足：次の問題に出てくる名詞『pride』（誇り）との関連も重要です。「誇りに思う」は、この 'be proud of' を使う他に、"take pride in ~" という動詞句で表現することもできます。意味はほぼ同じです。例文: "My parents are very proud of me for graduating from college." (両親は、私が大学を卒業したことをとても誇りに思ってくれています。)

9.

解答 ③

【解説】

正解は③の『mosquito』です。この単語は、特に夏場に人を悩ませる、血を吸う小さな昆虫「蚊」を指します。スペイン語が語源とされています。他の選択肢も、身の回りでよく見かける小さな生き物を指す単語です。①の『spider』は「クモ」です。クモは脚が8本なので、厳密には昆虫ではありません。②の『fly』は「ハエ」を指します。動詞の「飛ぶ」と同じスペルですが、名詞として使われるとハエを意味します。④の『bee』は「ミツバチ、ハチ」を指します。これらの単語は、日常生活で遭遇する可能性のある生き物なので、区別して言えるようにしておくことで便利です。

◆補足：蚊に刺された箇所は "a mosquito bite" と言います。また、蚊よけスプレーは "mosquito repellent" と呼ばれます。複数形は 'mosquitoes' または 'mosquitos' となります。例文: "I was bitten by a mosquito last night and it's very itchy." (昨日の夜、蚊に刺されて、とてもかゆいです。)

10.

解答 ①

【解説】

正解は①の「楽しみのために、冗談で」です。この表現は、何かをする目的が、利益や義務、仕事のためではなく、純粋に「楽しみのため、遊びで」あることを示す際に使われます。また、本気ではなく「冗談で、からかい半分で」何かを言ったりしたりする、という意味でも使われます。文脈によってどちらの意味になるかを判断します。他の選択肢は、似たような単語を使いますが、品詞や意味が異なります。②「面白い人」は 'a fun person' や 'a funny person'。③「楽しい出来事」は 'a fun event'。④「面白がって笑う」は 'laugh for fun' となりますが、通常は 'laugh at' などが使われます。『for fun』が目的を表す副詞句であることを理解しましょう。

◆補足：『for fun』と似た表現に『for pleasure』があります。どちらも「楽しみのために」と訳せますが、『for fun』の方がより気軽に活動的な遊びや冗談を指し、『for pleasure』は読書のような、より静かで個人的な楽しみを指す傾向があります。例文: "We sometimes play soccer on weekends, just for fun." (私たちは時々、週末にサッカーをします。ただ楽しむためにね。)" "Don't take it seriously. I only said it for fun." (本気にしないでよ。冗談で言っただけだから。)

11.

解答 ④

【解説】

正解は④の「暗記して、そらで」です。この熟語は、詩やスピーチ、電話番号などを、何も見ずに言えるほど完全に「暗記して、そらで」覚えている状態を表します。前の問題の動詞 'memorize' と非常に深い関わりがありますね。「心 (heart) で覚える」という直訳から、頭だけでなく心に刻み込むほどしっかり覚えている、というイメージを持つと分かりやすいかもしれません。他の選択肢も「心」に関連する表現ですが、意味が異なります。①「心を込めて」は 'with all one's heart'。②「心から」は 'from the bottom of one's heart'。③「本心では」は 'at heart' となります。

◆補足：「～を暗記する」と言いたい時は、"learn ~ by heart" という決まった言い方をします。これは "memorize ~" とほぼ同じ意味で使うことができます。例文: "She knows all her favorite songs by heart." (彼女は自分のお気に入りの歌をすべてそらで歌える。)" "I learned the new vocabulary list by heart for the test." (私はテストのために、新しい単語リストを暗記した。)

12.

解答 ④

【解説】

正解は④の「お祝い」です。『celebration』は、誕生日、結婚、勝利、記念日など、何か喜ばしい特別な出来事を祝うためのパーティーやイベント、つまり「お祝い、祝賀会」を指す名詞です。動詞の 'celebrate' (～を祝う) の名詞形ですね。この単語は、人々が集まって楽しむ、ポジティブで華やかなイメージを持っています。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ抽象名詞です。①の「会話」は 'conversation'。②の「集中」は 'concentration'。③の「協力」は 'cooperation' です。これらの単語も社会生活や学習の場面で使われる重要な語彙なので、この機会に区別して覚えておきましょう。

◆補足：「お祝いに」と言いたい時は、"in celebration of 〜" という形で使われることが多いです。例文: "They are holding a big celebration for their company's 50th anniversary." (彼らは会社の創立 50 周年を記念して、大きなお祝いの会を開いています。) "The whole town joined in the celebration after the team won the championship." (チームが優勝した後、町中がそのお祝いに加わった。)

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の「相変わらず〜だ」です。この表現は、"as + 形容詞 + as ever" の形で、人や物の状態が「以前と全く同じように〜である、相変わらず〜だ」ということを強調する際に使われます。時間が経っても変化がないことを示す表現で、前の問題の 'as usual' と似ていますが、こちらは特に「昔から今までずっと変わらない」という継続のニュアンスが強いです。他の選択肢は、それぞれ異なる比較や条件を表します。①は比較級を使った表現 (e.g., more ... than before)、②は 'more ... than ever'、③は 'whenever' などが対応します。

◆補足：この表現は、久しぶりに会った人の様子が変わらないことを伝えたり、物の状態が昔のままであることを述べたりする際に便利です。例文: "My grandmother is as active and cheerful as ever." (私の祖母は相変わらず活動的で陽気です。) "The castle stood as beautiful as ever." (その城は相変わらず美しく建っていた。)

14.

解答 ②

【解説】

正解は②の『center』です。この単語は、ある場所や物の「中心、真ん中」を指す最も基本的な名詞です。日本語の「センター」と同じ感覚で使うことができます。町の中心、円の中心など、地理的な中心だけでなく、注意や活動の「中心」といった比喩的な意味でも使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる場所を指します。①の『corner』は「角、隅」。③の『edge』は「端、へり」。④の『entrance』は「入り口」です。これらの位置を表す単語は、場所を説明する際に非常に重要なので、それぞれの意味を正確に理解しておきましょう。

◆補足：ショッピングセンター (shopping center) や、スポーツセンター (sports center) のように、様々な施設が集まる「中心的な場所」という意味で、建物の名前にもよく使われますね。形容詞の 'central' (中心の) も重要な派生語です。イギリス英語では 'centre' と綴られることもありますが、意味は同じです。例文: "There is a large fountain in the center of the square." (その広場の中心には、大きな噴水がある。)

15.

解答 ④

【解説】

正解は④の『during』です。この前置詞は、「(特定の期間)の間」という意味で、その期間中に何かが起こったことを示します。後ろには、"the summer vacation" (夏休み) や "the meeting" (会議)、"the Edo period" (江戸時代) のように、特定の出来事や期間を表す名詞が続きます。他の選択肢も期間を表しますが、使い方が異なります。①の『while』は接続詞で、後ろに主語と動詞のある文が続きます (例: while I was sleeping)。②の『for』は、後ろに具体的な時間の長さ (数字) が来ます (例: for three days)。③の『since』は、「～以来ずっと」という、過去のある時点からの継続を表します。これらの使い分けは、英語の基礎として非常に重要です。

◆補足：『during』が「期間中のいつか」を指すのに対し、同じく期間を表す『throughout』は「期間中ずっと、始めから終わりまで」という継続のニュアンスを強調します。例文: "I visited many museums during my stay in London." (ロンドン滞在中に、私は多くの美術館を訪れた。)

16.

解答 ④

【解説】

正解は④の「出口」です。『exit』は、建物や部屋、乗り物などから「外へ出るための通路」、つまり「出口」を指す名詞です。劇場、駅、高速道路など、様々な公共の場所でこの表示を見かけますね。非常口は "emergency exit" と言います。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語です。①の「入口」は 'entrance' で、『exit』の明確な対義語です。この二つは、建物の案内表示で必ずセットで使われるので、ペアで覚えましょう。②の「入場」は 'entry' や 'admission'。③の「例外」は 'exception' です。

◆補足：『exit』は動詞として「退場する、退出する」という意味でも使われます。演劇で俳優が舞台から去る際の指示書きなどで見られます。しかし、日常会話で「外へ出る」と言う場合は、"go out" や "leave" を使う方が一般的です。まずは名詞の「出口」という意味をしっかりとマスターすることが大切です。例文: "The emergency exit is at the back of the bus." (非常口はバスの後方にあります。)

17.

解答 ①

【解説】

正解は①の『ceremony』です。この単語は、社会的な、または宗教的な特別な機会に行われる、形式にのっとった行事、つまり「式典」や「儀式」を指す名詞です。入学式、卒業式、結婚式、授賞式など、私たちの生活における様々な節目で行われるフォーマルなイベントがこれにあたります。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語です。②の『certificate』は、何かを証明するための「証明書」や「修了証書」です。卒業式でもらうのは 'diploma' や 'certificate' です。③の『character』は、人の「性格」や、物語の「登場人物」を指します。④の『opportunity』は「機会、チャンス」と

いう意味です。これらの単語も、人生のイベントについて語る際によく使われるので、区別して覚えておきましょう。

◆補足：結婚式は "a wedding ceremony"、卒業式は "a graduation ceremony"、開会式は "an opening ceremony" のように、何の式典なのかを具体的に示す言葉と一緒に使われることがほとんどです。例文: "The opening ceremony of the Olympic Games was watched by millions of people around the world." (オリンピックの開会式は、世界中の何百万人もの人々によって視聴された。)

18.

解答 ④

【解説】

正解は④の『wallet』です。この単語は、主にお札やカード類を入れるための、折りたたみ式の「財布」を指します。特に男性が使う財布を指すことが多いです。他の選択肢も、物を入れるためのアイテムですが、種類が異なります。①の『pocket』は、洋服についている「ポケット」のことです。②の『bag』は、様々な種類の「かばん、バッグ」全般を指す広い言葉です。③の『purse』も「財布」と訳せますが、こちらは主に女性が使う、小銭入れやハンドバッグを指すことが多いです。特にイギリス英語では、女性用の小銭入れを指すのが一般的です。このように、性別や形状によって単語が使い分けられることがあるのが面白いですね。

◆補足：「財布をなくす」は "lose one's wallet"、「財布を盗まれる」は "have one's wallet stolen" のように表現します。例文: "I realized I had left my wallet at home when I tried to pay." (支払いをしようとした時、私は家に財布を置き忘れてきたことに気づいた。)

19.

解答 ④

【解説】

正解は④の「普通の、標準的な」です。『normal』は、何かが大多数と同じで、典型的、標準的、平均的であることを示す形容詞です。「いつもの、通常の状態」というニュアンスで、異常な状態や特別な状態と対比して使われます。他の選択肢は、すべて『normal』とは逆の概念を表します。①の「珍しい」は 'unusual' や 'rare'。②の「特別な」は 'special'。③の「普通ではない」は 'abnormal' や 'unusual' です。『normal』の対義語である 'abnormal' は、否定の接頭辞 'ab-' が付いた形で、覚えやすいですね。

◆補足：名詞形は 'normality' (正常な状態) です。また、"return to normal" (通常の状態に戻る) という表現もよく使われます。例文: "After the festival, the town slowly returned to normal." (お祭りの後、町はゆっくりと通常の状態に戻った。)"It's normal to feel nervous before a job interview." (就職の面接の前に緊張するのは、普通のことです。)

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の『coupon』です。この単語は、特定の商品やサービスを割引価格で購入したり、無料の特典を受けたりするために使う「クーポン券、割引券」を指します。日本語の「クーポン」と全く同じ意味で使われるので、覚えやすいですね。他の選択肢は、お金の支払いやサービスに関連する別のものです。②の『ticket』は、電車や映画、コンサートなどの「切符、チケット」です。③の『receipt』は、お金を支払ったことの証明となる「レシート、領収書」です。④の『cash』は「現金」を意味します。これらは買い物に関連する基本的な単語なので、しっかり区別できるようにしておきましょう。

◆補足：「クーポンを使う」は "use a coupon" と言います。"discount coupon" (割引クーポン) や "free coupon" (無料クーポン) のように、どのような種類のクーポンかを具体的に示すこともあります。例文: "You can get a 10% discount if you use this coupon." (このクーポンを使えば、10 パーセントの割引が受けられます。)

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の『clothing』です。この単語は、人々が身に着けるシャツ、ズボン、ドレス、コートなど、いわゆる「衣服、衣類」全般を指す集合的な名詞です。'clothes' とほぼ同じ意味で使われますが、『clothing』の方が少しフォーマルな響きがあり、アパレル業界などでも使われます。重要なのは、これが数えられない名詞（不可算名詞）である点です。他の選択肢は、特定の種類の衣服やスタイルを指します。①の『fashion』は「ファッション、流行」。②の『uniform』は「制服」。③の『costume』は、演劇やパーティーで着る「衣装」や、特定の時代の「服装」を指します。

◆補足：'clothes' は常に複数形で使われ、「服の数」という概念がないのが特徴です。（× a clothe）一方、『clothing』は単数形で、集合的に衣類全体を表します。この二つの単語の文法的な使い方の違いも、覚えておくと良いでしょう。例文: "This store sells clothing for men, women, and children." (この店は、男性用、女性用、そして子供用の衣類を販売している。)

22.

解答 ③

【解説】

正解は③の『return』です。この動詞は、「元の場所や状態に『戻る、～を戻す、返す』」という意味を持つ非常に基本的な単語です。図書館から借りた本を元の場所（図書館）に「返す」という、この問題の状況にぴったりです。また、人が「(家に) 帰る」という意味でも使われます。他の選択肢を見てみましょう。①の『borrow』は「(無料で) ～を借りる」という、'return' とは逆の行為です。④の『keep』は「～を保つ、持ち続ける」という意味で、これも「返す」とは逆の概念ですね。②の『lend』は、「(無料で) ～を貸す」という意味です。この 'borrow' (借りる側) と 'lend' (貸す側) の

使い分けは非常に重要なので、必ず区別して覚えましょう。これらの基本的な動詞は、日常生活で頻繁に使われるので、意味を正確に理解しておくことが大切です。

◆補足：『return』は名詞として「帰ること、返却」という意味も持ちます。例えば、「往復切符」は "a round-trip ticket" の他に "a return ticket" (主にイギリス英語) とも言います。例文: "You must return these books to the library by next Friday." (あなたは来週の金曜日までに、これらの本を図書館に返さなければなりません。)

23.

解答 ④

【解説】

正解は④の『train』です。この動詞は、スポーツや仕事などで、特定のスキルを向上させたり、体を鍛えたりするために「練習する、訓練する、トレーニングする」という意味で使われます。マラソン大会という明確な目標のために、継続的に練習を積んでいるこの文脈に最適な単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる行為を表します。①の『run』は「走る」という具体的な動作です。トレーニングの一環として走ることはありますが、「トレーニングをする」という目的を含んだ行為全体を指すのは『train』です。②の『play』は、スポーツを「する、プレーする」という意味。③の『join』は、チームやクラブに「参加する、加わる」という意味です。

◆補足：『train』は名詞として「電車」という意味で最もよく知られていますが、動詞としての用法も非常に重要です。また、人を訓練する人、つまり「トレーナー」は 'trainer' となります。例文: "Professional athletes have to train for several hours every day." (プロのスポーツ選手は、毎日数時間トレーニングをしなければならない。)

24.

解答 ②

【解説】

正解は②の『memorize』です。この動詞は、情報や知識を、後で正確に思い出すことができるように、意図的に「暗記する、記憶する」という意味で使われます。試験勉強で単語や年号、公式などを覚える際にぴったりの単語です。他の選択肢も、学習に関連する重要な動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『realize』は、それまで気づいていなかった事実に「(はっきりと) 気づく、悟る」という意味です。③の『recognize』は、以前見たり聞いたりしたものを「認識する、見分ける」こと。④の『review』は、学んだことを「復習する」という意味です。学習の各段階を表すこれらの動詞の違いを理解しましょう。

◆補足：『memorize』と似た単語に『remember』(～を覚えている、思い出す)があります。

『memorize』が「覚える」という動作に焦点を当てているのに対し、『remember』は「覚えている」という状態や、「思い出す」という行為を表します。名詞形は 'memory' (記憶、思い出) です。例文: "You don't have to memorize the whole speech, just the key points." (スピーチの全体を暗記する必要はありません、要点だけで大丈夫です。)

25.

解答 ①

【解説】

正解は①の「いつも通り、相変わらず」です。この表現は、何かが普段の状態や、いつものやり方と「同じように」行われることを示します。特に変化がなく、平常運転であることを表す際に使われる、非常に便利なフレーズです。文頭、文中、文末など、様々な位置に置くことができます。他の選択肢は、それぞれ異なる頻度を表す表現です。②の「ほとんどいつも」は 'almost always'。③の「時々」は 'sometimes'。④の「滅多にないが」は 'rarely' や 'seldom' が対応します。これらの頻度を表す副詞や副詞句は、物事の起こる確率を示す上で欠かせない表現なので、それぞれのニュアンスをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足：as usual は、良い意味でも悪い意味でも使うことができます。例えば、"He is a hard worker as usual." (彼は相変わらずの努力家だ。) というポジティブな文脈でも、"He was late for the meeting as usual." (彼はいつも通り、会議に遅刻した。) というネガティブな文脈でも使うことができます。

26.

解答 ③

【解説】

正解は③の「2、3の～、いくつかの～」です。この表現は、「2つ（または3つ）の～」や、漠然と「いくつかの～」という、少数を表す際に使われる非常に便利な口語表現です。"couple" はもともと「一対、一組」を意味するため、厳密には「2つの」を指しますが、会話では「2、3の」という大まかな数を表すためによく使われます。後ろには複数形の名詞が続きます。他の選択肢は、それぞれ異なる数量を表します。①「たくさん」は 'a lot of' や 'many'。②「ほとんど～ない」は 'few' (数えられる名詞) や 'little' (数えられない名詞)。④「～の一組」は 'a pair of' (靴下やメガネなど、二つで一組のもの) や、文脈によっては 'a couple of' が使われることもありますが、「2、3の」という意味の方がより一般的です。

◆補足：a couple of days (2、3日)、"a couple of minutes" (2、3分)、"a couple of times" (2、3回) のように、時間や回数を表す際にも頻繁に使われます。例文: "I'll be back in a couple of minutes." (2、3分で戻ります。) "I have a couple of questions to ask you." (あなたにいくつか質問があります。)

27.

解答 ④

【解説】

正解は④の「望む、願う」です。動詞の『hope』は、未来に良いことが起こることを「望む、願う」という、ポジティブな気持ちを表します。実現の可能性があることに対して使われるのが基本で、単なる願望というよりは、実現することへの期待が含まれています。他の選択肢は、未来に対する異なる態度を表します。①の「恐れる」は 'fear'。②の「期待する」は 'expect'。③の「計画する」は 'plan' です。特に 'expect' と 'hope' の違いは重要です。『hope』が良いことが起こることを「願う」のに対し、『expect』は、良いか悪いかにかかわらず、何かが起こるだろうと「予期する、予想する」という、より客観的なニュアンスです。

◆補足：I hope (that) ... の形で、「…であることを望みます」と表現するのが最も基本的な使い方です。'that' は省略されることがよくあります。例文: "I hope you have a wonderful time on your trip." (旅行が素晴らしい時間になることを願っています。) "I hope to see you again soon." (また近いうちにお会いたいです。) のように、後ろに to 不定詞が来ることもあります。

28.

解答 ②

【解説】

正解は②の「海外へ、海外で」です。『abroad』は、「外国へ、外国に、海外で」という意味を表す副詞です。自分の国から出て、別の国へ行ったり、滞在したりすることを指します。'go abroad' (海外へ行く)、'live abroad' (海外で暮らす)、'study abroad' (留学する) のように、動詞の直後に置かれて使われることが非常に多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる場所や状態を表します。①「船上で」と④「乗り物に乗って」は 'on board' が使えます。③「広い場所に」は 'in a wide place' など表現されます。

◆補足：『abroad』は副詞なので、'to' などの前置詞を必要としないのが大きなポイントです。"go to abroad" とは言わず、"go abroad" と言うのが正しい使い方です。この点はテストでもよく狙われるので、しっかり覚えておきましょう。例文: "My dream is to study abroad in the United States someday." (私の夢は、いつかアメリカに留学することです。)

29.

解答 ①

【解説】

正解は①の「彫像」です。『statue』は、石、金属、木などを彫ったり鋳造したりして作られた、人や動物の像、特に実物大かそれ以上の大きさのものを指します。公園や広場に立っている偉人の「像」や、美術館にある彫刻作品などがこれにあたります。他の選択肢は、スペルが似ていたり、同じような文脈で使われたりする可能性がある単語です。②の「地位」と④の「状態」は 'status'。③の「身長」は 'height' です。これらの単語との混同に注意しましょう。ニューヨークにある「自由の女神」は、英語で "the Statue of Liberty" と言います。この有名な例で覚えると、忘れにくいかもしれません。

◆補足：人や動物の形をした、比較的小さな「置物」や「フィギュア」は、次の問題に出てくる『figure』という単語で表されることが多いです。『statue』は、より大きく、芸術的・記念碑的な作品

というニュアンスが強いです。例文: "There is a statue of the town's founder in the center of the park."
(公園の中央には、その町の創設者の像がある。)

30.

解答 ④

【解説】

正解は④の『journey』です。この単語は、ある場所から別の場所への「旅行、旅」を指す名詞です。特に、比較的長い距離を移動する場合や、移動の過程そのものに焦点が当たる場合に使われることが多いです。他の選択肢も旅行に関連する単語ですが、ニュアンスが異なります。①の『commute』は、家と職場の間の日々の「通勤」を指します。②の『trip』も「旅行」という意味で非常に一般的に使われますが、出発してから帰ってくるまでの一連の行為全体を指すことが多いです。③の『adventure』は、危険や興奮を伴う「冒険」を指します。長距離の「道のり」というニュアンスを持つ『journey』が、この問題の文脈に最も適しています。

◆補足：『journey』は、比喩的に「(人生などの長い) 道のり」という意味で使われることもあります。例えば、"Life is a journey, not a destination." (人生は旅であり、目的地ではない。) という有名な言葉があります。例文: "They went on a long journey across the desert." (彼らは砂漠を横断する長い旅に出た。)

31.

解答 ②

【解説】

正解は②の「贈り物」です。『gift』は、誕生日やクリスマス、お祝い事などの際に、感謝や好意を示すために人に贈る品物、つまり「贈り物」や「プレゼント」を指す最も一般的な単語の一つです。

'present' とほぼ同じ意味で使われますが、『gift』の方が少しだけフォーマルで、心のこもった価値ある贈り物というニュアンスを持つことがあります。しかし、日常会話ではほとんど区別なく使われます。他の選択肢は、それぞれ全く異なるものを指します。①の「才能」も実は『gift』が持つ重要な意味ですが、まずは「贈り物」を覚えましょう。③の「持ち物」は 'belongings' や 'possessions'。④の「願い事」は 'wish' となります。

◆補足：①の「才能」という意味は、「神様からの贈り物」という考え方から来ています。"a gift for music" (音楽の才能) のように使います。この二つの意味を持つことを知っておくと、読解の際に役立ちます。例文: "Thank you for the wonderful gift. I really love it." (素敵な贈り物をありがとう。本当に気に入りました。)

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の「～を支払う、清算する」です。『check out』は、文脈によって様々な意味を持つ非常に便利な句動詞です。この問題では、それが持たない意味を選ぶ必要があります。①の「(ホテルの) チェックアウトをする」は、滞在を終えて手続きをすること。②の「(図書館で本を) 借りる」は、貸し出し手続きをすること。③の「～を調べる、確かめる」は、興味のある情報や物事を詳しく見たり聞いたりすること。これらは全て『check out』の正しい意味です。①と②は「手続きをして外に出る」という共通のイメージがありますね。一方、④の「支払う」は 'pay' や 'settle' といった動詞が使われ、『check out』にこの意味は直接ありません。ホテルのチェックアウト時に支払い (pay the bill) はしますが、熟語そのものの意味ではないので注意が必要です。

◆補足：日常会話では、③の意味で「ねえ、これ見てみて！」と相手の注意を引く際に "Check this out!" のように、命令文で非常によく使われます。例文: "We have to check out of the hotel by 11 a.m." (私たちは午前 11 時までにホテルをチェックアウトしなければならない。)"I checked out five books from the library." (私は図書館から 5 冊の本を借りた。)

33.

解答 ②

【解説】

正解は②の「ユーロ (通貨)」です。『euro』は、欧州連合 (EU) の多くの加盟国で使われている公式な単一通貨の名称です。記号は「€」で表されます。ニュースや海外旅行に関する話題で頻繁に登場する重要な単語です。他の選択肢もヨーロッパに関連する言葉ですが、意味が異なります。①の「ヨーロッパ大陸」は 'Europe'。③の「ヨーロッパ連合」は 'the European Union' またはその略称 'the EU'。④の「ヨーロッパ人」は 'European' です。これらの単語は、地理や国際関係について学ぶ上で基本的な語彙となりますので、しっかり区別できるようにしておきましょう。

◆補足：通貨の単位なので、"one euro"、"ten euros" のように、複数形では 's' が付きます。ただし、アイルランドでは複数形も 'euro' のまま使われるなど、地域による違いもあります。例文: "How much is this in euros?" (これはユーロではいくらですか?) "I exchanged some yen for euros at the airport." (私は空港で円をユーロに両替した。)

34.

解答 ①

【解説】

正解は①の「仕事で、商用で」です。この表現は、旅行などの目的が、休暇や観光ではなく、「仕事のため」であることを示す際に使われる決まり文句です。「出張で」と訳されることも多いですね。前置詞 'on' には、「～に従事して、～の目的で」という意味合いがあり、ここでは「ビジネスという目的で」というニュアンスを表しています。他の選択肢は、それぞれ全く異なる経済状況や雇用状態を表します。②は 'business is good' や 'the economy is booming'、③は 'business is bad'、④は 'unemployed' や 'out of work' などの表現が使われます。

◆補足：旅行の目的を尋ねる入国審査などで、"Are you here on business or for pleasure?"（お仕事ですか、それとも観光ですか？）と聞かれるのは定番の質問です。この "on business"（仕事で）と "for pleasure"（観光で、楽しみで）は対比で覚えておくと非常に便利です。例文: "My father is going to London on business next week."（私の父は来週、仕事でロンドンへ行きます。）

35.

解答 ④

【解説】

正解は④の「校長」です。『principal』は、名詞として、学校の最高責任者である「校長」を指します。特にアメリカ英語でよく使われます（イギリス英語では 'headmaster' や 'headmistress' が使われることが多いです）。他の選択肢は、学校にいる別の人々を指します。①の「生徒」は 'student'。②の「保護者」は 'parent' や 'guardian'。③の「先生」は 'teacher' です。これらの学校関連の人物を表す単語は、基本的な語彙として必ず覚えておく必要があります。

◆補足：『principal』には、形容詞として「主要な、最も重要な」という意味もあります。"the principal reason"（主な理由）のように使います。名詞の「校長」も、「学校で最も主要な人物」と考えると、意味の関連性が理解しやすいかもしれません。また、スペルがよく似た『principle』（主義、原則）という単語との混同には、特に注意が必要です。

36.

解答 ④

【解説】

正解は④の『shopper』です。この単語は、店で商品を見たり買ったりする人、つまり「買い物客」を指します。動詞の 'shop'（買い物をする）に、人を表す接尾辞 '-er' が付いた形ですね。他の選択肢は、デパートなどで働く別の人々を指します。①の『clerk』は「店員、事務員」です。②の

『manager』は「支配人、店長、部長」など、管理職の人を指します。③の『security guard』は、警備や見張りをする「警備員」です。これらの単語は、お店での場面を描写する際に重要となるので、それぞれの役割を理解しておきましょう。

◆補足：『shopper』と似た言葉に 'customer'（顧客）があります。'customer' は、商品を買ったりサービスを受けたりする「客」全般を指す、より広い言葉です。『shopper』は、特に「買い物をしている」という行為に焦点が当たった言葉と言えます。例文: "The new mall is very popular among young shoppers."（その新しいショッピングモールは、若い買い物客たちの間でとても人気がある。）

37.

解答 ①

【解説】

正解は①の「前方へ」です。副詞の『forward』は、空間的に「前へ、前方へ」という方向を示すのが最も基本的な意味です。対義語は 'backward' (後方へ) です。この二つはセットで覚えると良いでしょう。また、時間的に「将来に向かって」という意味や、物事を「促進させる、前進させる」という比喩的な意味でも使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる方向を表します。②「後方へ」は 'backward'。③「上方へ」は 'upward'。④「遠くへ」は 'far away' など表現されます。これらの方向を示す副詞は、動きを正確に描写するために重要です。

◆補足：熟語の "look forward to ~" (~を楽しみに待つ) は、文字通り「前を向いて見る」というイメージから、「未来の楽しみな出来事を見つめる」という意味になった、非常に重要な表現です。メールの転送も 'forward' という動詞を使いますね。例文: "She took a step forward to get a better view." (彼女はより良い景色を見るために、一歩前に出た。)

38.

解答 ④

【解説】

正解は④の「めったに～ない」です。副詞の『seldom』は、何かが起こる頻度が非常に低いこと、つまり「めったに～ない、まれにしか～ない」という意味を表します。'rarely' とほぼ同じ意味で使うことができます。この単語自体に否定的な意味が含まれているため、文中に 'not' を使う必要はありません。このような単語を「準否定語」と呼びます。他の選択肢は、それぞれ異なる頻度を表す副詞です。

①の「いつも」は 'always'。②の「時々」は 'sometimes'。③の「決して～ない」は 'never' で、『seldom』よりもさらに強い完全な否定を表します。これらの頻度を表す副詞の強さの順番を理解しておくと、表現のニュアンスを正確に掴むことができます。

◆補足：準否定語が文頭に来ると、後ろの文の語順が疑問文のようになる「倒置」が起こることがあります。(例: Seldom does he come here. / 彼はここにめったに来ない。) これは少しレベルが高い文法ですが、知っておくと長文読解などで役立ちます。例文: "He is a very busy person, so I seldom have a chance to see him." (彼はとても忙しい人なので、私は彼に会う機会がめったにありません。)

39.

解答 ④

【解説】

正解は④の『empty』です。この形容詞は、容器や空間に、中身が何もない状態、つまり「空の、空っぽの」を表します。箱、グラス、部屋など、様々なものに対して使うことができます。他の選択肢は、それぞれ異なる状態を表す形容詞です。①の『full』は「いっぱいの、満ちた」という意味で、『empty』の明確な対義語です。この二つはセットで覚えるのが効果的です。②の『clean』は「清潔な、きれいな」。③の『dirty』は「汚い」で、'clean' の対義語ですね。これらの基本的な状態を表す形容詞は、物の様子を描写する上で欠かせません。

◆補足：『empty』は動詞として、「～を空にする」という意味でも使われます。(例: empty a bottle / ボトルを空にする) 形容詞と動詞、両方の使い方を覚えておくと良いでしょう。例文: "After the party,

there were many empty bottles on the table." (パーティーの後、テーブルの上にはたくさんの空き瓶があった。) "He emptied his pockets, but he couldn't find his keys." (彼はポケットを空にしたが、鍵を見つけることはできなかった。)

40.

解答 ②

【解説】

正解は②の『truth』です。この名詞は、嘘や作り話ではない、本当のこと、つまり「真実、事実」を指します。客観的に証明できるかどうかだけでなく、誠実さや正直さといった道徳的な価値観を含む言葉です。他の選択肢は、主観的な概念を表す単語です。①の『opinion』は、個人の「意見、考え」。③の『feeling』は「感情、感覚」。④の『idea』は「考え、アイデア」です。これらは必ずしも真実であるとは限りません。'truth' と、これらの主観的な言葉との違いを理解することが、論理的な文章を読み解く上で重要になります。

◆補足：形容詞形は 'true' (本当の、真実の) です。また、「真実を話す」は "tell the truth" という決まり文句で表現されます。このコロケーションは必ず覚えておきましょう。対義語としては、「嘘」を意味する 'lie' があります。例文: "You should always tell the truth, even when it is difficult." (たとえそれが困難な時でも、あなたは常に真実を話すべきです。)

41.

解答 ②

【解説】

正解は②の「事実」です。『fact』は、実際に起こったことや、真実であることが証明できる事柄、つまり「事実」を指す名詞です。個人の感想や考えとは区別される、客観的な情報を指すのがポイントです。ニュース記事や科学的なレポートなど、正確さが求められる文脈で非常に重要な役割を果たします。他の選択肢は、主観的な概念を表す言葉です。①の「意見」は 'opinion'。③の「考え」は 'idea' や 'thought'。④の「感情」は 'feeling' や 'emotion' です。'fact' と 'opinion' の違いを理解することは、論理的な思考の基礎となります。

◆補足：in fact という熟語は、「実際には、実のところ」という意味で、前の文の内容を補足したり、意外な事実を述べたりする際によく使われる重要な表現です。例文: "It is a fact that the earth goes around the sun." (地球が太陽の周りを回っているのは事実だ。)"He looks young, but in fact, he is over forty." (彼は若く見えるが、実は 40 歳を超えている。)

42.

解答 ③

【解説】

正解は③の「A ではなく B」です。この表現は、A を否定し、代わりに B が正しい、あるいは重要であることを強調するための、非常によく使われる構文です。「A ではなく、むしろ B だ」という対比や訂正のニュアンスを明確に伝えることができます。他の選択肢は、それぞれ異なる意味を持つ重要な構文です。①「A か B のどちらか」は 'either A or B'。②「A と B の両方」は 'both A and B'。④「A に加えて B」は 'B in addition to A' や 'not only A but also B' (A だけでなく B も) といった表現が対応します。これらの構文は、文と文、語と語の関係を正確につなぐために不可欠なので、それぞれの役割をしっかりと理解しておきましょう。

◆補足: 'not A but B' の構文では、A と B には文法的に同じ形のもの（名詞と名詞、形容詞と形容詞など）が入るのが原則です。これを平行構造（パラレリズム）と言います。例文: "The most important thing for your health is not money but a balanced diet." (あなたの健康にとって最も大切なのは、お金ではなく、バランスの取れた食事です。)

43.

解答 ①

【解説】

正解は①の『fix』です。この動詞は、壊れたり、正常に機能しなくなったりしたものを「～を修理する、直す」という意味で使われる、非常に一般的で口語的な単語です。'repair' とほぼ同じ意味ですが、『fix』の方がより会話でよく使われます。おもちゃ、時計、車、コンピューターなど、様々なものを対象に使うことができます。他の選択肢は、それぞれ異なる行為を表します。②の『break』は「～を壊す」で、'fix' の逆の行為です。③の『make』は「～を作る」。④の『touch』は「～に触る」です。これらの基本的な動詞との意味の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足: 『fix』には、他にも「(食事などを) 用意する」「(日時や価格などを) 固定する、決める」など、たくさんの意味があります。多義語ですが、まずは中心的な意味である「修理する」を確実にマスターしてください。例文: "My father taught me how to fix a flat tire on my bicycle." (父は私に、自転車のパンクを修理する方法を教えてくれた。)

44.

解答 ①

【解説】

正解は①の『stand』です。この動詞は、「立つ」という意味で最もよく知られていますが、英検準2級レベルでは、否定文や疑問文で使われて「～を我慢する、～に耐える」という意味になる用法が非常に重要です。特に、'can't stand' の形で「～には我慢できない、～はうんざりだ」という強い不快感を表す決まり文句として頻繁に使われます。他の選択肢は、基本的な動作を表す動詞ですが、この文脈には合いません。②の『stop』は「やめる」。③の『start』は「始める」。④の『sit』は「座る」です。

◆補足: 「我慢する」という意味では、'bear' や 'endure'、'put up with' といった単語や熟語も同じような意味で使われますが、'can't stand' は、より口語的で感情的な表現です。目的語には、名詞だけでなく、動名詞（～ing 形）が来ることもあります。例文: "I can't stand the smell of cigarettes." (私はタ

バコのおいには我慢できない。) "I can't stand listening to his complaints anymore." (彼の不平を聞くのにはもう耐えられない。)

45.

解答 ②

【解説】

正解は②の「外出している、不在である」です。この表現は、人があるべき場所、例えば家や職場などにいない、つまり「外出中」や「不在」である状態を示します。副詞の 'away' には「離れて」という意味があるので、"be 動詞 + away" で「離れている状態」を表すと考えると理解しやすいですね。旅行や出張で長期間いない場合にも、一時的な外出の場合にも使うことができます。他の選択肢は、それぞれ全く異なる状態を表す表現です。①「道に迷っている」は 'be lost'、③「遅れている」は 'be late'、④「眠っている」は 'be asleep' や 'be sleeping' などで表現します。

◆補足：具体的な理由を付け加えることで、より詳しい状況を説明できます。例えば、"be away on business" (出張で不在だ)、"be away on vacation" (休暇で(家を)離れている)、"be away from home" (家を離れている) のような形で使われます。例文: "I'm sorry, Mr. Tanaka is away from his desk right now." (申し訳ありません、田中はただいま席を外しております。)

46.

解答 ④

【解説】

正解は④の『forget』です。この動詞は、「～を忘れる」という意味で、頭の中から記憶がなくなってしまうことや、何かをすべきことをすっかり実行し忘れることを表します。「鍵をかける」という行為をすべきだったのに、それをしなかった、というこの問題の状況に最も適しています。他の選択肢も、何かをなくしたり、覚えていたりする状況で使われる重要な単語です。①の『remember』は「～を覚えている、思い出す」という意味で、『forget』の対義語です。②の『lose』は、物や試合などを「～を失う、なくす」という意味です。③の『leave』は「～を置き忘れる」という意味で、物をどこかに置いたままにしてきてしまった状況で使います。「記憶」をなくすのが 'forget'、"物" をなくすのが 'lose' や 'leave' と区別すると分かりやすいです。

◆補足：『forget to do』(～するのを忘れる) と『forget doing』(～したことを忘れる) の使い分けは、非常に重要な文法ポイントです。前者は未来の行為を、後者は過去の行為を忘れることを指します。例文: "Don't forget to lock the door when you go out." (外出する時は、ドアに鍵をかけるのを忘れないでね。)"I'll never forget seeing that beautiful sunset." (あの美しい夕日を見たことを、私は決して忘れないだろう。)

47.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～を除いては」です。この表現は、ある全体について述べた後で、それに当てはまらない「例外」を示す際に使われます。「～という点を除けば、～以外は」という意味で、文の一部を修正したり、限定したりする役割を果たします。単独の前置詞 'except' とほぼ同じ意味で使われることが多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を示す重要な前置詞句です。①「～に加えて」は 'in addition to ～'。②「～の前に」は 'in front of ～' や 'before ～'。④「～の代わりに」は 'instead of ～' です。これらの前置詞句は、文の論理構造を正確に理解する上で欠かせません。

◆補足：'except' と 'except for' は多くの場合交換可能ですが、文頭では 'except for' のみが使われるというルールがあります。例文: "The museum is open every day except for Mondays." (その博物館は、月曜日を除いて毎日開館している。) "Your essay is very good, except for a few spelling mistakes." (あなたの作文は、いくつかのスペルミスを除けば、とても良いです。)

48.

解答 ③

【解説】

正解は③の『by sea』です。この表現は、交通や輸送の手段として、船を使って「海路で、船で」行くことを示します。前置詞の 'by' は、交通手段を表す際に広く使われ、"by + 乗り物" の形で「～で」という意味になりますが、'sea' (海), 'air' (空), 'land' (陸) のような、より大きな概念と結びついて経路を示すこともあります。他の選択肢は、それぞれ異なる輸送経路を表します。①の『by air』は「空路で、飛行機で」。②の『by land』は「陸路で」。④の『by rail』は「鉄道で」です。これらの表現は、物流や旅行の文脈で非常によく使われるので、セットで覚えておきましょう。

◆補足：交通手段を表す 'by' の後ろに来る名詞には、通常、冠詞 (a, the) が付かないのが原則です。(例: by bus, by train, by car) このルールも併せて覚えておくと、英作文などで間違いが減ります。例文: "It is cheaper to transport goods by sea than by air, but it takes much longer." (商品を空路で輸送するより海路で輸送する方が安いですが、ずっと時間がかかる。)

49.

解答 ④

【解説】

正解は④の『behind』です。この前置詞は、物や人の「～の後ろに、～の背後に」という位置関係を表します。何かの陰に隠れて見えない、という状況でよく使われますね。他の選択肢は、それぞれ異なる位置を表す基本的な前置詞です。①の『beside』は「～のそばに、～の隣に」。'next to' と同じ意味です。②の『under』は「～の下に」。③の『over』は「～の上に、～を越えて」です。これらの空間的な位置関係を表す前置詞は、英語の基礎として非常に重要なので、それぞれのイメージを正確に掴んでおきましょう。

◆補足：『behind』は、物理的な位置だけでなく、「(時間や進歩が)遅れて」という意味でも使われます。例えば、"be behind schedule" (予定より遅れている) のように使います。また、副詞として単独で「後ろに」という意味でも使えます。例文: "The sun disappeared behind the clouds." (太陽が雲の後ろに隠れた。)

50.

解答 ②

【解説】

正解は②の『carefully』です。この副詞は、ミスをしないように、あるいは何かを壊したり危険な状況になったりするのを避けるために、「注意深く、慎重に」行動する様子を表します。形容詞の 'careful' (注意深い) に '-ly' が付いて副詞になった形ですね。壊れやすいガラス製品を運ぶという、まさに注意が必要な状況にぴったりの単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる動作の様子を表す副詞です。①の『quickly』は「速く」。③の『quietly』は「静かに」。④の『heavily』は「重々しく、激しく」です。これらの副詞は、動詞を修飾して、その動作がどのように行われたかを具体的に説明する上で欠かせません。

◆補足：『carefully』の反対の概念を表す副詞は『carelessly』(不注意に、うっかりと) です。この対義語も一緒に覚えておくと、表現の幅が広がります。例文: "Please read the instructions carefully before you assemble the furniture." (家具を組み立てる前に、説明書を注意深く読んでください。)
